

西田幾多郎博士作品を吟ずる

第二十二回全国吟詠大会からの指定吟題

① 秋夜読書

ひとり坐せば 寥々として 秋気涼し

案頭 巻を披けば 感方に長し

隙風来り襲つて 燈光乱れ

明月 輝々として 草堂を照らす

② 秋郊聞笛

秋郊の風景 満眸晴れたり

寂寞として 遥かに聞く 玉笛の声

尤も憶う 今宵 感慨多しと

他郷 忽ち起こす 故郷の情を

③ 春園歩月

地上の清光 霜を踏むが如し

夜遊ぶ 恰も仙郷に到るに似たり

好きかな 春月 花上に輝けること

一苑 東風に万樹香し

④ 秋夜故郷を思う

夜風は 颯々として涼し

明月は 白きこと霜の如し

独り坐す 書窓の下

頭を 低れて故郷を思う

⑤ 無題

歲月 流水の如く

又 春色新たなるに逢う

寒梅 伴侶と成す

天地 一人

⑥ 湘南落日

青山 海に連なつて尽く

潮水 天に接して流る

落日 煙雲の外 只 富岳の浮ぶを見る

⑦ 白砂青松

砂白く 松青々 海青く 波白々

古城 山下の路 日々 往来と為す

⑧ 鎌倉雑詠

故人 半ば鬼と為る 生者 果たして如何

昔日 同遊の地 花に對して 感慨多し

⑨ 絶句

数箇の春鶯 柳辺に鳴く

数行の 過雁 蒼天を渡る

窓に含む 東岳の好春景

門に泊す 前川万里の船

⑩ 愛宕山

愛宕山 入る日の如くあかあかと

燃し尽さん残れる命

⑪ 吾死なば

吾死なば 故郷の山に埋れて

昔語りし友を夢みむ

⑫ 人は人

人は人 吾は吾なりとにかくに

吾行く道を吾は行くなり

⑬ わが心

わが心 深き底あり 喜も

憂の波もどかと思ふ

(くりかえし)